
はじめに

新しく学級担任になられる方、また初めての学年を担当される方、経験を積んでこられ、さらにより学級経営をするためにちょっとしたコツを知りたいと思っていられる方、ぜひ本書をご活用いただきたいと思います。

これまでにたくさんの初任の先生方や教員を目指している学生と出会ってきました。彼らの多くが不安に思っていることが、学級経営でした。中学校の教員は、自分の専門とする教科については、ある程度の知識も自信もあります。しかし、学級経営については、着任した学校や出会った生徒によって対応が異なります。また、教員自身が経験したことのない課題を突きつけられることもあります。「学校現場は、ブラックだ」と言われるたびに、学級担任としてちゃんとやっていけるのか不安になることも多いのでしょう。年度当初の学級は、単なる個の集まりです。もちろん、課題を抱えた生徒が多い学級、穏やかで真面目な生徒が多い学級もあるでしょう。しかし、そのままの姿が年度末の姿ではありません。教員の学級経営の力によって、学級の姿は変わってきます。

今、日本の教育は海外からも注目されています。日本の教育は、認知的能力と非認知的能力をバランスよく育てています。認知的能力とは、知識や思考力などの力を指します。非認知的能力とは、他者との協働、目標の達成、感情のコントロールといった力を指します。つまり、日本の教師は、授業だけでなく、朝の会から給食指導、家庭学習の仕方、健康や安全、生徒同士の人間関係づくり、学習指導以外の多くのことを指導しているのです。日本の教員が、大変優秀であると言われるのは、学習指導だけでなく学級経営においても素晴らしい力を発揮しているからではないでしょうか。

本書は中学校の学校現場で、生徒が幸せな学校生活を送れるような学級経営をしたいと思われている学級担任の先生方が、イメージをもってすぐに使える本を考え、作成したものです。と同時に、さらに新たな視点をもって実践をしていきたいと考えられている方に向けた本でもあります。

第1章が理論編、第2章が事例編の2部構成となっております。理論編では、基礎となる考え方を簡潔に説明し、事例編は学級担任として〇月には、何をすべきか、どのような工夫したらよいかなどをコンパクトにまとめています。まずは「やってみよう」と挑戦してみてください。本書が望ましい学級経営を通して健全な生徒を育てようと、取り組まれている先生方の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行に当たりご尽力いただいた東洋館出版社の石川夏樹氏、学校現場でご活躍され、素晴らしい実践を寄せてくださった先生方、ともに編集にあたっていただいた佐藤利行先生に心より御礼を申し上げます。

2023年1月31日

編集代表 橋谷 由紀

本書活用のポイント

本書では、4月から3月まで毎月どのような学級経営を行っていけばよいか、各月の目標・注意事項を解説しています。また、学級経営の具体的なアイデアを、イラストをもとに、どのクラスでも運用できるような形で紹介しています。是非、ご自身のクラスでも実践してみてください。



1年間を見通した学級経営を!

■本書の見方

月初め概論ページ

4 新たな出会いを大切にす4月

4月の目標

1 学期の始式から3年生として新しい学校生活が始まります。3年生は改めて進級を実感し、学校生活への新たな思いや思い、夢や希望に胸を膨らませ、新しい進級や学級担任との出会いへの期待が高まるものです。学級担任にとっても新たな出発となります。新しい生徒と出会い、これからの1年間をどのように学級経営していくか考え、計画を立てることを目標とします。

4月の学級経営を充実させるために

4月当初、学級担任は、新しい生徒と出会い、これからの1年間をどのように学級経営していくかしっかりと考え、目標をもって運営していく必要があります。新たな出会いを大切に、自ら好ましい人間関係を作っていく姿勢を促していき、思い出さず忘れない学級となるよう働きかけ、励まし合う仲間意識を育てていきたいと思います。4月のスタートのこの時期には最上級生になったことを自覚できるようにし、リーダーシップを発揮できるようにいろいろな場を設定し、試行しながら適切な指導を行うことが大切です。また、生徒の特徴や個性、持ち合わせているよきの伸長を心かけ、目標をもたせながら着実に学級経営を行っていくことが大切です。

3年生は、義務教育の最終段階となり、進路選択をしなければならぬ学年となります。生徒は最上級生になった喜びとともに進路の決定に対する不安感を持ち合わせています。将来に対する夢もたせ、自己理解の意識を高める指導を行っていきいきたいと思います。3年生の学級を運営は、まず信頼される担任を目指していきながら進路の決定に大きく関わることになります。学級にいる約40名の生徒の進路という大きな決定に大きく関わることにあります。個々の生徒の進路希望実現に向けて3年次の進路指導をスタートさせてください。

●4月の学級経営の3本柱

- ① 新たな出会いを大切に、自ら好ましい人間関係をつくることのできる学級を目指す。
- ② 自分の学級であるという意識をもち、安心して居心地のよいと思えるような学級を目指す。
- ③ 1年間の見通しをもち、自己実現できる学級を目指す。

注意事項

4月は学級経営の軌、校務分掌や部活動指導等で多忙となるので、時間を有効に使い効率よく仕事を行う必要があります。この時期こそ体調を整え気力を充実させて乗り切るようにしましょう。

学級経営アイデア紹介ページ

4 新年度準備

4 新年度準備チェックリスト

| | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 指導要録 | <input type="checkbox"/> 生徒名簿 | <input type="checkbox"/> 出席簿 | <input type="checkbox"/> 生徒指導カード |
| <input type="checkbox"/> 健康診断票 | <input type="checkbox"/> 歯科健診票 | <input type="checkbox"/> 保健調査票 | |

【環境整備】

教室

- ・ロッカー
- ・カーテン
- ・清掃用具
- ・廊下

リーダーの資質

- ・机
- ・椅子
- ・窓
- ・黒板
- ・黒板消し
- ・花
- ・空気清浄機

運動能力

ビデオ撮影の技術

※各クラスに、ビデオ撮影ができる生徒を一人入れる。

【生徒指導】

学級経営方針

生徒手帳

時間割

出会いの言葉

学級通信

※始業式のときに読むものと、年間の大きな計画

【生徒用記録ノート】

※ノートでも、パソコンでも、生徒の成長が記録できるものを準備します。活動の様子や生徒のよさが表れている行動、気になるところの指導に必要な情報を記録していきます。

【学級のルール】

- ・朝の会、帰りの会
- ・掃除当番、給食当番、日直
- ・欠席者対応
- ・委員会活動、係活動
- ・班決め、席替え
- ・筆箱の巾着、持ち物

【学習関係】

- ・年間計画表
- ・教科書
- ・教材研究
- ・授業ルー
- ・ノート指導
- ・授業開き
- ・話の聞き方
- ・宿題
- ・テスト

1 目標・注意事項

その月の学級経営での目標、考え方、注意事項を紹介しています。月ごとに何をやるべきなのかを学年で共有する際、このページが参考になります。1年間というスパンで子ども・クラスの成長を捉える中で、月ごとにPDCAを回していきます。

2 月のねらいに合わせた実践例

ここでは、その月のねらいを達成するために、オリジナルの実践例を紹介しています。教師の言葉かけから、ゲームなど幅広い内容となっています。自身の学級経営にマンネリを感じてきたら、是非、ここでのアイデアを実践してみてください。

3 活動の流れ

紹介する活動について、そのねらいや流れ、指導上の留意点をイラストとともに記しています。その活動のねらいを教師がしっかりと理解することで、教師の言葉かけも変わってきます。この一連の活動で、その月の学級経営の充実を目指していきます。

4 中心となる活動・場面など

紹介する活動において、中心となる活動や場面、教材、板書例などに焦点を当て、活動の大切なポイントを解説しています。その後のゴールのイメージをもつ際に役立ちます。学級経営では、生徒の発言を受け止める、つぶやきを大切にす、温かな言葉かけが大切です。

もくじ

1 第3学年における 学級経営の ポイント

2 第3学年の 学級経営

はじめに ……001
本書の見方 ……002

中学校の学級経営 ……008
教師の姿勢が学級をつくる ……010
3年生の担任になったら ……012
保護者とつながる学級経営 ……016
学校行事を学級経営に生かす ……018
道徳教育と特別の教科道徳 ……020

4月 新たな出会いを大切にす ……024

新年度準備 ……026
始業式 ……028
学級目標 ……030
学級懇談会 ……032
欠席・遅刻・早退 ……034
学級通信 ……036
学級会 ……038
朝の会・帰りの会 ……040
食物アレルギー対応 ……042
リーダーシップ・フォローシップ ……044

5月 自主的で意欲的な活動をめざす ……046

体育祭 ……048
教育相談 ……050
生徒総会 ……052
席替え ……054
情報モラル教育 ……056

6月 学級の諸問題についての解決策や 自分の在り方について考える ……058

定期テスト ……060
修学旅行 ……062
学級会の工夫 ……064
熱中症予防 ……066

トラブルが起きたときの対応 ……068

7月 1学期の反省と新たなスタート ……070

通知表所見 ……072
GIGA端末の活用 ……074
三者面談 ……076
夏休みの過ごし方 ……078

8月 夏季休業中でも生徒に目を向ける ……080

気になる生徒への支援 ……082
担任の夏休み ……084
教室環境 ……086

9月 進路選択に対する意識を高める ……088

夏休み後の生徒観察 ……090
不登校生徒への対応 ……092
進路希望調査後の指導 ……094
防災訓練 ……096
学校説明会 ……098

10月 行事への取り組みを通して、 学級としてのまとまりをつくる ……100

合唱コンクール ……102
文化祭 ……104
成績と志望校 ……106
進路に関わる保護者対応 ……108
個人ノート ……110

11月 温かい学級生活の見直し ……112

自己開示 ……114
校内リーダー研修 ……116
生徒集会 ……118
学力向上 ……120
志望校決定 ……122

12月 2学期の反省をもとに3学期につなげる ……124

年末・年明けの指導 ……126
進路指導 ……128
大掃除 ……130

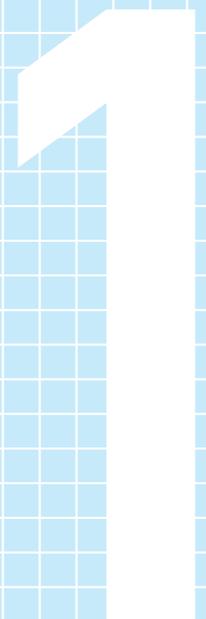
1月 互いに励まし合いながら受験期を乗り越えていく ……132
面接練習 ……134
高校入試前後 ……136
健康教育 ……138

2月 中学校3年間で最も全力を尽くす ……140
模擬面接 ……142
薬物乱用防止教育 ……144
学年末の通知表 ……146
キャリア教育 ……148

3月 楽しかった中学校生活の締めくくり ……150
卒業生を送る会 ……152
卒業期の学年行事 ……154
卒業の前に ……156
卒業式 ……158
年度末の担任業務 ……160

編者紹介・執筆者一覧 ……162

第3学年における 学級経営の ポイント



中学校の学級経営

1 学級経営とは

学級経営の定義や意義については、様々な考え方がありますが、本書では、学級経営は、学校における児童・生徒の基本的な活動単位である学級を教育的な目標に即して組織化し、教育活動を充実させていく教師の仕事とします。ですから、生徒理解、生徒指導、教育相談、学習指導、教室環境等の整備、学級事務などのすべてが含まれると考えます。

学級は、生徒にとって、学習や生活など学校生活の基盤となる場です。生徒は、学校生活の多くの時間を学級で過ごすため、学級における自分と友達との関係や、自分と学級集団の関わりの在り方は、学校生活そのものに大きな影響を与えます。そこで、学級経営の中でも学級集団としての質の高まりを目指したり、教師と生徒、生徒相互のよりよい人間関係を構築しようとしたりすることを、その中心的な内容とします。

学級経営＝教育活動を充実させる教師の仕事

- ・生徒理解
- ・生徒指導
- ・教育相談
- ・学習指導
- ・教室環境等整備
- ・学級事務 など

2 中学生の発達の段階における課題

中学校段階の生徒の主な特徴として挙げられるのは、思春期に入り発達は個別に異なりますが、急激な身体的発達、精神的発達の時期を迎えるということです。自分には、家族や周りの友達と異なる独自の内面の世界があること、また、周りの友達にもそれぞれ内面の世界があることに気づき、大人との関係よりも友達との関係が自分にとって大きな意味をもつと感じてきます。さらに反抗期を迎え、親などの大人に対してコミュニケーションがとりにくくなることもあります。友達からの評価を強く意識し、自分自身に対する意識と客観的事実との違いに悩み、様々な葛藤の中で自らの生き方を模索し始めます。また、性意識や異性などへの興味・関心も高まります。未熟ながらも体も心も大人に近づき、大人の社会と関わる中で、大人もそれぞれ自分の世界をもちつつ、社会で責任を果たしていることに気づくようになる時期でもあります。

また、学校生活においては、小学校までとは違う新しい友達との出会いや、教科担任制や部活動などでの多様な教師との出会い、社会的な視野の広がり、そして進路の選択など新しい環境や課題に直面していきます。そうした中、生徒は、現在及び将来における自分の生き方について考え始めますが、価値観が多様化し、生き方にも様々な変化や課題が生じている現代の社会にあっては、すべての生徒が望ましい生き方を自覚し、これを深められるとは限りません。中には、自分の生き方に不安を抱き、挫折や失敗によって、自信や意欲を失っている生徒も少なくはありません。学級経営の中で、自己肯定感を高め、将来を肯定的に捉えられるようにすることも中学校教師の大事な仕事なのです。

3 学級経営の充実と特別活動

このように中学生の時期には、自我の目覚めや心身の発達により自立への要求が高まります。そこで、生徒の自発的、自治的な活動を可能な範囲で尊重し、生徒が自らの力で組織をつくり、活動計画を立て、協力し合って学びに向かう集団づくりができるように導くことが大切になります。

特別活動は、教育課程全体の中で、特別活動の各活動・学校行事における資質・能力を育む役割だけでなく、全教育活動を通じて行われている学級経営に寄与します。学級経営は、特別活動を要として、計画され、更なる深化が図られます。そしてそれが、学びに向かう集団づくり、各教科等での「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の上での基盤となるのです。

中学校学習指導要領には、第5章 特別活動の第3の1の(3)に次のように示されています。

学級活動における生徒の自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、個々の生徒についての理解を深め、教師と生徒、生徒相互の信頼関係を育み、**学級経営の充実を図ること**。その際、特に、いじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図るようにすること

学級活動は自治的な活動であり、よりよい学級の生活を築き学級の文化を創造するため、集団として問題発見や話し合いを通しての合意形成や、話し合いで決まったことを協力して実践することが中心となる活動です。学級での話し合い活動は、学級活動や生徒会活動の中心となるものですが、学校行事の充実のために、学級における提案や取り組みの在り方などについて、合意形成をする上でも重要な機能を担っています。自発的、自治的な活動の充実は、休み時間、放課後などにおいても、生徒の人間関係等により影響をもたらします。

現行の学習指導要領では、これまで小学校学習指導要領の総則及び特別活動のみに記述されていた「学級経営の充実」が中学校学習指導要領の総則及び特別活動にも示されています。これは、中学校の学習や生活においても、その基盤となる学級としての集団の役割が、重要であると認識されてきたためでしょう。学級活動を通して、生徒は、学級への所属感や規範意識を高め、学級を安心して学習できる居場所になります。また、一人一人の生活の課題を解消し、自己実現に向け、学ぶ意義の理解を深めたり、自分の進路を考えたりしながら、学習に主体的に取り組むことができるようになっていくのです。

教師の姿勢が学級をつくる

1 教師の願い

学級担任であれば、誰もが共通に願うのは、楽しく豊かな学級生活を築き、質の高い学習を展開し、どの子も健やかに成長できるようにすることでしょう。だからこそ、学級担任は生徒たちや保護者と好ましい関係をつくるとともに、生徒同士のよりよい人間関係を築くために努力するのです。

年度当初の学級は、単なる個の集まりであり、教育効果が高まる学級にはなっていません。どのクラスも同じようなものです。もちろん、課題を抱えた生徒が多くいる学級、穏やかで真面目な生徒が多くいる学級など、いろいろあることでしょう。ところが、ひと月も過ぎると少しずつ差が出てきます。年度末には、「進級してもクラスのみならずと別れたくない」というクラスと、「早くこのクラスの人と別れたい、このクラスにはいたくない」という声が聞こえるクラスがあります。学級経営には、学級担任の人間としての生き方や人間性が深く関わっています。

2 教師が心がけたいこと

中学生は、生徒の自主性が高まるとはいえ、生活体験や社会体験はまだ少なく、教師の適切な指導や個別的な援助などが必要です。そのためには、個々の生徒をよく理解するとともに、集団の場面における指導や個別的な援助の在り方の工夫に努め、生徒の自主的、実践的な活動を促していくことが大切になります。学級経営において、教師が心がけたいこととして7つ挙げます。

- 温かい雰囲気をつくって生徒に安心感を与える。
- 人権に反する言動には厳しく戒め、思いやりや優しさの行動には積極的に認め、賞讃する。
- 安全に関わる指導を徹底し、教室に秩序と規律をつくる。
- 一人一人の生徒とじっくり関わったり、保護者と信頼関係を築いたりし、個々の生徒のよさや可能性、課題を把握し、個に応じた指導をする。
- 生徒を励まし信頼し、生徒が自ら考え挑戦することを奨励し、失敗した時も寛容の心で許し、積極性を育てる。
- どの生徒にも、役割があり、活躍できるようにするとともに、すべての生徒が安心して過ごせる教室環境と居場所をつくる。
- 自分の学級の学級経営だけでなく、学年の教師が互いに協力し合う学年経営の充実を図る。

3 学級づくり

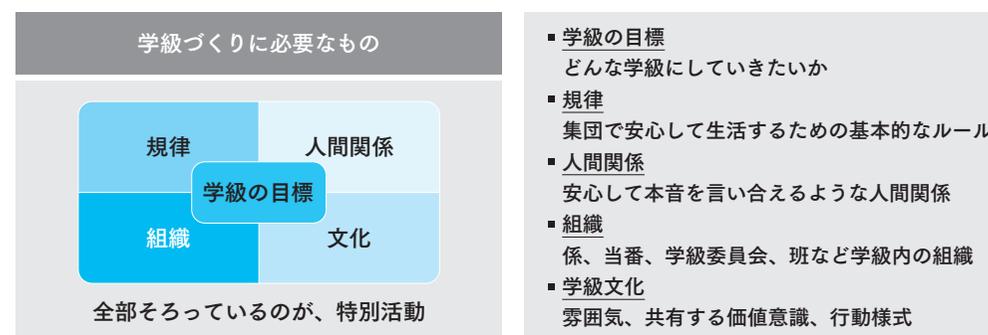
教室には、その学級特有の空気感があります。「温かい」、「明るい」、「楽しそう」反対に、「冷たい」、「暗い」、「苦しそう」などですが、学級風土は、生徒たちの学校生活に大きく関わっています。そこにいるだけで、安心して何事にも取り組み、主体的で協働的な学びができ、いじめ等を未然に防ぐこともあれば、緊張し、やる気をなくし、いじめ等を生み出すこともあるのです。前者が支持的風土（支え合い認め合う関係）、後者が防衛的風土（監視し合い批判し合う関係）です。その学級風土には、生徒の構成や教師のタイプなどが影響しています。木原孝博氏は、教師のタイプを受容的態度（A/a）と要求的態度（D/d）のそれぞれの強さをもとに、「adタイプ」「Adタイプ」「aDタイプ」「ADタイプ」の4つに分け、受容的態度も要求的態度も強い「ADタイプ」を、理想としています（木原孝博著『学級社会学』）。教師が、受容ばかりの優しさだけでは、学級の規律やルールが守れませんし、要求ばかりの厳しさだけでは、生徒の気持ちが離れてしまいます。優しさと厳しさをバランスよく兼ね備えることで、学級に支え合い、認め合える人間関係が育みやすいのです。

教師のタイプ

| 強度 | 強い | 弱い |
|-------------------------------|----|----|
| 受動的態度 (accepting attitude) | A | a |
| 要求的態度 (demanding attitude) | D | d |

【参考：『学級社会学』】

次に学級づくりに必要なものを考えていきます。まずは学級の目標です。学級の目標は、教師が意図をもって、生徒たちと話し合いながら決めていく学級のよりどころとなるものです。教師と生徒たちみんなできつくり、全員が共通理解しておくことが大切です。次に学級の規律です。一人も取り残すことなく、学級の全員が安心して生活するための基本的なルールが必要です。そして、もちろん、安心して本音を言い合えるような人間関係も欠かせません。さらに、係、当番、学級委員会、班など学級内の組織や共有する価値意識、行動様式などの学級の文化も挙げられます。



2年生の担任になったら

1 2年生の特徴

新年度を迎えると、生徒はそれぞれ新しい目標を掲げ、心機一転活躍したいという気持ちをもっています。特に2年生は、先生や上級生から手取り足取り教わりながら過ごしてきた1年間の中学校生活の経験から、少し見通しをもつことができ、さらに、初めての下級生となる新生が入学してくることで、その思いは一層強くなります。教師にとってみると、「また1年間が始まる」といった毎年のサイクルでルーティンワークのように思えてしまうこともあるかもしれませんが、生徒はそうではありません。新たなスタートを楽しみにしています。

しかし、その一方で、身体的にも精神的にも子どもから大人への移行期であり、心が揺れ動く不安定な時期でもあります。もちろん個人差はありますが、人間関係の悩みやトラブルも多くなり、なぜ勉強しないといけないのか疑問に感じたり、社会や大人への信頼が揺らいだり、将来に対する不安感やいらだちなど、複雑な思いを抱きながら学校生活を送ることもあります。このようなことから、学ぶことの意義や働くことの意義について考えたり、自分の将来や進路について考えたりして、**前向きに生活を送ろうとする意識を高めていく**ことが大事になる時期でもあります。自己の在り方生き方について、道徳との関連も踏まえつつ適切に指導・支援し、生徒が自分自身と向き合うことができる時間を大切にしていきたいものです。

2 2年生学級担任としての心構え

2年生は、前述のとおり、1年生の経験を踏まえて心機一転取り組もうと意欲に燃える一方、心が揺れ動く時期であり、個人差はあるものの思春期真っただ中で反抗期もあり難しい発達段階です。だからこそ、生徒のエネルギーを健全な方向に発揮させる工夫や手立て、適切な指導・支援が必要です。そこが学級担任としての力の発揮のしどころであると考えます。揺れ動く生徒の思いや困り感に寄り添い、誠実に関わっていくことが信頼関係につながっていきます。

(1) 自主性・主体性を引き出す

2年生では、次年度に向け、**生徒が学校のリーダーとして自主的・主体的に取り組むようになるための意識づくり**が大切になります。生徒が自分たちの手で少しずつできるように経験を積ませて

自信につなげていくことが重要です。そして、所属学年の仲間を大切にするとともに、リーダーを支えるフォロワーを育てるために「頑張っている人を大事にしよう」という心を大切に指導したいと考えます。3年生は学校の顔であり、2年生は3年生を支える大切な役目です。また、初めての後輩となる1年生を正しく導くことができるようリーダーシップを発揮できる力を身に付けていかなければなりません。2年生がしっかりしていると学校が締まるという意識を高めていきたいです。

しかし、1年生のときと異なり、不安定な時期で生徒指導が思うようにならず、「学級が落ち着いていない」と周りの先生方から指摘されて困っている学級担任もいるかもしれません。特に経験の浅い教師にとっては、「後ろ指を指されないようにしたい」「他のクラスや先生方に迷惑をかけないようにしたい」という気持ちが働き、生徒の管理に力が向いてしまうこともあります。それにより、生徒との関係が悪化してしまうこともあるかもしれません。また、生徒はとても敏感で大人の気持ちや考えを察知します。学級担任の意識が管理に向いてしまうことで、クラスのリーダー的立場の生徒が学級担任の意向を反映して「小さい先生」のような動きや役回りをするようになってしまい、クラスの生徒から反感を買ってしまうこともあります。リーダーが一生懸命クラスのために力を尽くそうとしても、クラスは重たい空気になり、リーダーが「みんなが言うことを聞いてくれない」と苦勞することになるかもしれません。

(2) 生徒から学ぶ姿勢で接する

学級担任というのは、常に迷いが生じるものだと思います。「このやり方でよいのだろうか」「自分が求めているのはこの方法ではない」など、生徒のためによりよい指導・支援の在り方を追求すればするほど迷うのは当然です。しかし、生徒と接していつも感じるのですが、答えは生徒が教えてくれます。一生懸命に生徒のために力を尽くそうとする教師の姿勢に、生徒は必ず応えてくれます。逆に教師が手を抜けば、生徒はすぐにそれを見抜きます。ときに、生徒はこちらの出方を試すこともあります。学級担任として、**生徒の発達の段階や特性、持ち味などをよく理解し、常に生徒から学ぶ姿勢**でいることが大切であると考えます。

学級担任は、何を指すのかしっかりと方向性を持ちながらも、柔軟でおおらかに指導・支援にあたることができるかが大切です。学級担任が、毎日楽しみながら笑顔で元気いっぱい明るく生徒に接していれば、生徒も笑顔になり活気が出てきます。教師にとっても生徒にとっても楽しく充実した生活になるのではないのでしょうか。問題は起こって当たり前です。その時こそ指導のチャンスであり、生徒が成長できる場面です。日々生徒の反応を楽しみながら、共に成長していける教師でありたいものです。

3 計画的な学級経営

どんな業務であっても見通しをもって取り組むことは大切です。特に学級担任は学級の経営者であり、学級という組織をまとめ、よりよい成果を求めて経営努力をしなければなりません。学級経営の成果とは、組織の一員である生徒一人一人の個性や能力を伸ばし、自律・自立した一人社会人へと成長するよう力を高めるとともに、その生徒が互いに高め合える学級風土を醸成してよりよい学

4月

新たな出会いを大切にす4月

▶ 4月の目標

1学期の始業式から3年生として新しい学校生活が始まります。3年生は改めて進級を実感し、学級生活への新たな願いや思い、夢や希望に胸を膨らませ、新しい級友や学級担任との出会いへの期待が高まるものです。学級担任にとっても新たな出発となります。新しい生徒と出会い、これからの1年間をどのように学級経営していくか考え、計画を立てることを目標とします。

4月の学級経営を充実させるために

4月当初、学級担任は、新しい生徒と出会い、これからの1年間をどのように学級経営していくかしっかりと考え、目標をもって運営していく必要があります。新たな出会いを大切に、自ら好ましい人間関係をつくっていく姿勢を促していき、思い出深く忘れられない学級となるよう助け合い、励まし合う仲間意識を育てていきたいものです。そして生徒一人一人にクラスの一員として活躍する場を与えながら所属感をもたせていきましょう。4月のスタートのこの時期には最上級生になったことを自覚できるようにし、リーダーシップを発揮できるようにいろいろな場を設定し、試行しながら適切な指導を行うことが大切です。また、生徒の特徴や個性、持ち合わせているよさの伸長を心がけ、目標をもたせながら着実に学級経営を行っていくことが大切です。

3年生は、義務教育の最終段階となり、進路選択をしなければならない学年となります。生徒は最上級生になった喜びとともに進路の決定に対する不安感を持ち合わせています。将来に対する夢をもたせ、自己理解の意識を高める指導を行っていききたいものです。3年生の学級経営は、まず信頼される担任を目指していくことから始まります。3年生の担任をするということは、学級にいる約40名の生徒の進路という大きな選択と決定に大きく関わることになります。個々の生徒の進路希望実現に向けて3年次の進路指導をスタートさせてください。

● 4月の学級経営の三本柱

- ① 新たな出会いを大切に、自ら好ましい人間関係をつくることのできる学級を目指す。
- ② 自分の学級であるという意識をもち、安心安全で居心地のよいと思えるような学級を目指す。
- ③ 1年間の見通しをもち、自己実現できる学級を目指す。

注意事項

4月は学級経営の他、校務分掌や部活動指導等で多忙となるので、時間を有効に使い能率よく仕事を行う必要があります。この時期こそ体調を整え気力を充実させて乗り切るようにします。

自己紹介を生かした学級組織・学級目標決めへ

新しい学級で居心地がよく楽しい学校生活を送ることができるようにしていく一歩として、自己紹介を多くの学級が行っています。この試みは、新たな出会いを大切にしながら教師及び生徒同士の望ましい人間関係を構築していくために行います。前に出て自己紹介する方法や、自分の席から自己紹介を行う方法、掲示物で自己紹介する方法やGIGA端末を活用した映像での紹介・プレゼンテーションなど様々な方法が考えられますが、この活動は掲示物の作成を兼ねた自己紹介としました。

▶ ねらい

新しい学級への期待と不安がある中での自己紹介です。2年次に同じ学級だった仲間もいますが3年生になり改めて自分のことを知り、友達のことを知ることをねらいとしています。温かい雰囲気をつくり出し緊張感を和らげていきたいものです。併せて自己を見つめるよい機会にもしていきましょう。

▶ 活動例：自己紹介カードの活用

人前で話することが苦手な生徒もいるので、温かい雰囲気になるように担任がファシリテーター役となり生徒のよさを引き出すように試みるのが大切です。また、教室の環境をよくするものとして掲示していくことを伝えてから記入させます。自己紹介カードに貼る写真は事前にデジタルカメラで担任が撮影しておきます。生徒のよさが表れるような写真に仕上げしておきます。

- ① 担任が用意した自己紹介カード（A4判）に「趣味」や「特技」、「私はこんな人です」「この一年の意気込み」等を生徒が記入する。
- ② あらかじめ担任が撮影した写真を貼ったら必要事項を記入し自己紹介カードを完成させる。
- ③ リラックスできるようにまず担任がユーモアたっぷりに自己紹介する。
- ④ 自己紹介カードをもとに自席で自己紹介をする。
- ⑤ 担任が一言コメントを言い添え、拍手を促す。
- ⑥ 使用後の自己紹介カードは教室の後方に掲示する。
- ⑦ 新しく着任した先生や授業参観に来る保護者にも見てもらえるようにする。

▶ 活動後のポイント

● 自己紹介を学級組織決め、学級目標決めにつなげる

自己紹介で学級のメンバーのことを知った後に学級の議長団（例：学級委員、議長、副議長、書記、会計）を選出し、学級組織（学級委員、専門委員、係、班長）を決めていきます。学級組織を決めるには、何に立候補するかあらかじめアンケートを取っておくと決めやすいです。その後、企画案等を作成する学級プログラム委員会（例：議長、副議長、書記、会計、学級委員、班長）を立ち上げます。そして、学級プログラム委員会で学級目標の原案や方向性等を話し合い、学級会を開いて議題として提案していきます。この自己紹介で学級のメンバーのことを知り、それを生かして学級組織決め、学級目標決めにつなげていくようにします。

情報モラル教育

ねらい

自分や他者の権利を尊重し、情報社会での行動に責任をもつことや、情報を正しく安全に利用できること、コンピュータなどの情報機器の使用による健康への影響を理解できるようにします。

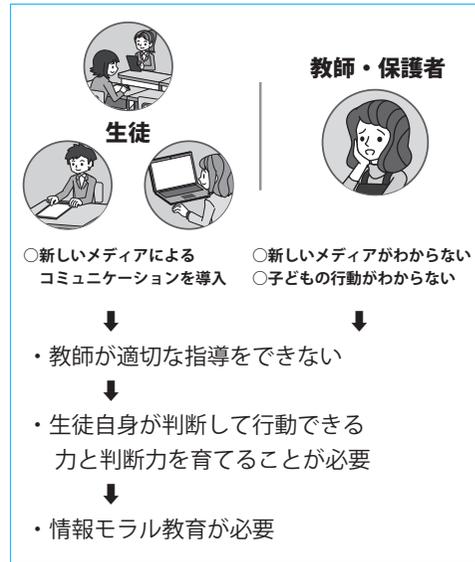
指導のポイント

生まれた時からインターネットが身近にあるいわゆる「デジタルネイティブ」世代にとっては、インターネットは、ツールではなく「ライフライン」として欠くことのできない大切なものとなっています。しかし、インターネットを使った新たな人権侵害事案や犯罪、健康が脅かされている現実もあります。ルールやマナーを身に付け豊かな人権感覚をもって、情報発信で

きるようにします。

情報モラルとは

学習指導要領では、「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」を「情報モラル」と定め、各教科の指導の中で身に付けさせることとしています。



指導の留意点

01 情報化に関わる課題

情報社会の進展が急速に進む中で、スマートフォンのメールやメッセージアプリによるネットいじめやSNS、ネット売買の利用などによる様々な問題が多発しています。

インターネット等を使ったコミュニケーションは、人と人が対面で接するコミュニケーションとは違います。会話であればその場で話したことは記憶にのみ残り、記録には残りませんが、インターネットを介したコミュニケーションの場合、**記録として保存され、簡単に削除することができない**可能性があります。基本的な情報モラルをもち合わせていないために大きな事件に巻き込まれる場合もあります。このような情報社会の進展とともに変化する特性を教員自身が理解し、生徒に指導することが必要です。

02 中学校の段階で育てたいこと

中学生の情報モラルに関することでよく問題になるのは、**著作権**、**個人情報**に関わることです。次のことができるように育てていきましょう。

- ・情報に関する自分や他者の権利を理解し尊重する
- ・情報社会のルール／法律を知り、順守する
- ・情報に関する危険を予測し被害を予防する
- ・情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身に付ける
- ・自他の安全や健康を害するような行動を制御できる
- ・情報セキュリティに関する基礎的基本的な知識を身に付け、対策／対応がとれる
- ・情報社会の一員として公共的な意識をもち、適切に判断し行動できる

インターネット依存のスクリーニングテスト

- Q1. 気が付くと思ったより、長い時間インターネットをしていたことがありますか？
- Q2. インターネットをする時間をふやすために、家庭での仕事や役割をおろそかにすることがありますか？
- Q3. 家族や友人と過ごすより、インターネットを選ぶことがありますか？
- Q4. インターネットで新しい仲間をつくることがありますか？
- Q5. インターネットをする時間についてまわりの人から文句を言われたことがありますか？
- Q6. インターネットをしている時間が長くて、学校の成績や学業に支障をきたすことがありますか？
- Q7. 他にやらないとならないことがあっても、まず先に電子メールをチェックすることがありますか？
- Q8. インターネットのために学習の能率や成果が下がったことがありますか？
- Q9. 人にインターネットで何をしているのかと聞かれた時隠そうとしたことがどのくらいありますか？
- Q10. 日々の生活の心配事から心をそらすためにインターネットでこころを鎮めることがありますか？
- Q11. 次にインターネットをするときのことを考えている自分に気づくことがありますか？
- Q12. インターネットのない生活は退屈でむなしく、つまらないものだろうと思うと恐ろしく思うことがありますか？
- Q13. インターネットをしている最中に誰かに邪魔されたり、いらいらしたり、怒ったり大声を出したりすることがありますか？
- Q14. 睡眠時間をけずって、深夜までインターネットをすることがありますか？

これは「インターネット依存」の概念を提唱したアメリカのキンバリー・ヤングのスクリーニングテストです。20項目の質問に対して5段階で回答します。心も体も未完の中学生がネット依存にならないように、上記の点に生徒自身が気を付けるようにすることが大切です。情報モラル教育についても、家庭を巻き込むことは大切です。懇談会や「学校便り」等で、保護者にも知らせるとよいでしょう。



03 実際の指導方法

GIGAスクール構想により、生徒は一人1台のタブレットなどが使えるようになってきました。実際にコンピュータを使って体験的に学ばせることや、ビデオやアニメーションなどを活用して理解させることができます。

学校・家庭・地域が一体となり、学校主催のオープンスクールやPTA主催の総会や各委員会での勉強会、地域の家庭教育講座や教育委員会主催の研修会などで、定期的に情報モラルの専門指導員から最新情報を得る講演会や端末機器の実演講習会が考えられます。NPO団体や携帯電話事業者、警察などの出前講座を利用することも可能です。さらに文部科学省のHPやSNSの企業が出しているパンフレットなども使いやすいものがあります。

04 対処方法についても教える

まずは、生徒の使用実態を把握し、トラブルが起きた際の解決方法や対応策を学びます。犯罪者や被害者にならないためにも、**著作権法**、**個人情報に関する法令**やその他インターネットに関する法律（個人情報保護法、サイバーセキュリティ基本法）の知識を踏まえた上での指導や生徒のインターネット上の問題の対処については、予防のための対処方法と、事後の対処方法がありますが、両方についての指導が必要です。情報モラル教育は、予防のために行いますが、**問題が起きた場合の対処方法**（相談窓口、有害・誹謗中傷書き込みの削除依頼方法、発信者開示請求の方法、心のケアの必要性）についても指導しておきましょう。

修学旅行

ねらい

普段と違う環境で自然や文化に親しみ、見聞を広げます。また、宿泊を通じてお互いを尊重した集団生活を送るのもねらいの一つです。

指導のポイント

修学旅行は、生徒が楽しみにしている大きな学校行事です。宿泊に伴うことから、安全面や健康面での配慮をする中で、その場でしか体験できない体験学習を取り入れるなど、探究的な学習を進めることも大切な指導のポイントとなります。班行動の行い方や現地の学習活動の計画を立てるなど、特別活動と総合的な学習の時間とを関連させて修学旅行を実施しましょう。

修学旅行 珍事件集

① 伝票に修正テープ事件

修学旅行先から自宅へ荷物を送る際に、伝票を書きます。伝票を書いたことがない生徒が多く、間違えたときに修正ペンや消しゴムを使用してしまったという例もあります。伝票の複写紙は二重線で訂正することなど、大人にとっては当たり前のことも、1つ1つ丁寧に伝えましょう。3年生は自分の住所を書く機会が多くなっていきますので、自分の住所はきちんと覚えておくように伝えましょう。

② 気持ちがハイになりすぎ事件

枕投げを部屋で行い、つい熱くなりすぎて喘息がある子が苦しんでしまうことがあります。さらに障子やふすまを破ってしまうこともあり、宿泊施設に大変な迷惑をかけてしまうこともあります。

③ 新幹線乗り遅れ事件

新幹線は停車時間が短く、きちんと整列しておかないと乗り遅れてしまう生徒が出てきてしまいます。あらかじめ新幹線に乗るときの並び順や座席の位置なども確認させておきましょう。

学級通信に載せる行程表の例

修学旅行行動予定
詳しいスケジュールがわからない！ という人がたくさんいたので、ものすごく大雑把ですが、こんな感じです。

| 6月5日(金) | 6月6日(土) | 6月7日(日) |
|---|----------------------------------|---|
| 品川出発 ↓ 奈良・法隆寺 世界最古の木造建築！ ↓ 唐招提寺 鑑真に会いに行きます。 ↓ 東大寺 鹿がいるでしょう ↓ 京都の宿へ 早寝しましょう。 | 京都 タクシーによる班行動 ↓ 夜 漆の絵付け | 京都・天龍寺 お庭と雲竜園を見ます。 ↓ 和菓子作り ↓ 北野天満宮 合格祈願をします。 ↓ 帰宅 家に帰るまでが 修学旅行です。 |

修学旅行行動予定(自由行動バージョン)
2日目のタクシー班行動のテーマと主な行動予定です。テーマが目標っぽくなってしまっている班もありますが、そこはご愛嬌ということで。タクシーのドライバーさんが、京都について詳しく教えてくれることでしょうか。

| 1班 京都を知ろう | 2班 京都を感じる (平安～江戸) | 3班 安全第一 | 4班 楽しくまなぼ |
|--|--|--|---|
| 清水寺 ↓ 銀閣寺 ↓ 金閣寺 ↓ 祇園 ↓ 錦市場 | 伏見稲荷大社 ↓ 竹林の道 ↓ 金閣寺 ↓ 祇園&錦市場 ↓ 清水寺 | 清水寺 ↓ 銀閣寺 ↓ 金閣寺 ↓ 二条城 ↓ 東寺 | 銀閣寺 ↓ 金閣寺 ↓ 龍安寺 ↓ 錦市場 ↓ 清水寺 |
| 5班 お寺めぐり | 6班 迷子にならない | 7班 世界遺産を巡ろう | 8班 軽く京都一周 |
| 清水寺 ↓ 金閣寺 ↓ 祇園 ↓ 金閣寺 ↓ 龍安寺 | 清水寺 ↓ 銀閣寺 ↓ 金閣寺 ↓ 貴船神社 ↓ 八坂神社 | 銀閣寺 ↓ 金閣寺 ↓ 京都駅 ↓ 伏見稲荷大社 ↓ 清水寺 | 八坂神社 ↓ 清水寺 ↓ 伏見稲荷大社 ↓ 金閣寺 ↓ 龍安寺 |

学級通信に載せる行程表は簡易的なもので構いません。



班別行動とする際は、それぞれの訪問先を掲載します。旅行のしおりには、詳細な訪問時間や、拝観料なども記載し、行程をより細かく把握できるようにします。

修学旅行のポイント

01 行程決めと事前学習

班行動で訪れる場所、見学にかかる費用などを見て行程を決めていきます。移動はジャンボタクシーで移動する場合と、電車・バスで移動の場合があり、電車やバスを利用する場合は、運行スケジュールや交通費なども考慮する必要があります。見学する時間や乗り換えにかかる時間も考えた上での行程になるため、事前学習を計画的に実施し、詳細な行動計画の設定が必要になります。行程を決めた後、実際に見学する場所についての学習を行います。資料の用意やインターネットの利用など準備も必要です。班行動中にお土産を買う場所や昼食場所などもしっかりと確認しておきましょう。

02 事前指導と事前準備

生徒への事前指導
修学旅行は学校生活の延長です。学校生活のルールに従い、スマートフォンなどの禁止物については、実行委員会などで話し合い、しっかりとしたルールを作っておきましょう。

担任としての事前準備
生徒の中には喘息や食物アレルギーなどの持病がある生徒もいます。薬の持参や緊急時の対応の仕方など、保護者や養護教諭などの情報交換は必ずしておきましょう。また、感染症の対策や、LGBTQなどへ配慮するようにしましょう。

03 当日、班行動

学習課題を生徒自ら設定し、自主的な学習活動を行うためには班行動は最適です。班長が中心となって班行動を行います。班員全員で行程計画を立てられるよう工夫が必要です。金銭の貸し借りなどのトラブルが発生することもありますので、旅行のしおりには、交通費や昼食費、お土産代などの使い道をチェックできるような欄を作っておきましょう。また、見学に夢中になってしまうことや交通機関の遅れなどで、予定した時間をオーバーすることもあります。時計を持参することや先生方と連絡を取るための方法についても事前に伝えておきましょう。

04 事後指導と事後学習

事後指導
禁止物の持参や他校生とのトラブルなど、修学旅行での問題は、管理職に報告します。その場に応じた指導を行い、保護者にも連絡します。禁止物は旅行中は預かり、解散後に保護者に返却します。連絡もれ、返却もれは、大きなめ事になる可能性があるため、忘れずに返却しましょう。

事後学習の例

- パンフレット
個人で作業ができます。
- 見聞録
見栄えよく仕上げるができます。
- プレゼンテーション
グループで作業することができます。